



学級だよりの魔法

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

いよいよ年度末となりました。この一年間の学級経営はいかがだったでしょうか。無我夢中のうちに過ぎてしまったそんな感じかもしれませんね。

日々多忙で、なかなかふり返る余裕はないかもしれませんが、新年度へ向けて抱負をもたれている先生もいらっしゃるでしょう。

今回はその中から、「学級だより」の話題を取り上げたいと思います。

○学級だよりの目的とは

学級だよりを、単純に保護者へのサービステキと考えていないでしょうか。それだと義務感・負担感を抱いてしまうかもしれません。そうではなく、自分の学級経営の充実につながるものととらえたらよいと思います。「学級経営に保護者も参加してもらおう」、そんな気持ちで発行

すれば、やりがいも出てくるでしょう。

ところで、保護者に参加してもらおうとはどういうことでしょうか。家庭での親子の会話を想像してみましょう。「へえ、Aちゃんってこんな面もあるんだ。すごいね」「あら、今日はあなたのことがわっているわ。へえ、こんなことができるようになったんだ。えらいなあ」など、我が子のこと、あるいは友達のこと、親子の会話がはずめばはずむほど、それは必ず学級経営の充実につながるのです。

親へのサービスが自分に戻ってくるといつてよいでしょう。

○インシヤルでよいので名前を出そう

新米先生の中には、子どもの名前を出してはいけないと思っている方もいるようです。校長先生はじめ先輩の指導を仰ぐことはもちろん大切ですが、私は出してよいと思います。ただし留意点があります。

純然たる個人的な話題は避けた方がよいでしょう。大部分の保護者には関係がないからです。

例えば、リレーの選手四人だけの話題ならやめたほうがよいでしょう。しかし、リレー選手の選出過程にはほほえましい話題があったとか、練習の過程で多くの子どもが応援し、選手と応援の子どもが一体となったとか、そういう話題なら、ぜ

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のホームページ」でブログを執筆中。

「子どもをみる」と一口に言っても、そのみかたはいろいろあります。漢字に置き換えると、「見る・観る・視る・診る・看る」の五つがありますね。どれも大切です。書き続けることによって、それぞれの「みる力」がついていきます。

○思わぬ副産物とは

こうして学級だよりを書き続けると、思わぬ副産物生まれるものです。何より子どもをみる努力を、自然にするようになるのです。

話し合い学習など、授業の話題も取り上げるとよいでしょう。みんなで話し合い、ねらいに迫ることができたとか、価値を深め合ったとか、そうした話題は保護者も強い関心を抱くものです。具体的であればあるほどよいと思います。

また、歌ったり作ったり運動したりする学習においても、みんなで協力し合ったり助け合ったり一体となったりした話題は、ぜひ取り上げたいものです。

○授業の話題も積極的に取り上げよう

ひ取り上げたらよいと思います。一見個人的なように見えても、子どもは学級の多くの子どもと関わりながら生活しているのですから、その関わりに焦点をあてればよいのです。

「子どもをみる」と一口に言っても、そのみかたはいろいろあります。漢字に置き換えると、「見る・観る・視る・診る・看る」の五つがありますね。どれも大切です。書き続けることによって、それぞれの「みる力」がついていきます。

○学級経営方針が伝わる

こうなると、冒頭に述べた「保護者が学級経営に参加する」感じがさらに強まります。担任の学級経営方針が、暗黙のうちには保護者に伝わるからです。たとえば方針を大上段にふりがざしたとしても、保護者にはなかなか伝わらないでしょう。読んでくれなれないと思います。先生と保護者双方で学級だよりを作り上げていく姿勢が大事です。

○保護者との双方向で

子どもの作文や保護者の声を掲載するのもいいですね。しかしこれも、特定の子どもだけの個人的な内容ではなく、学級生活に関わるものを掲載するとよいでしょう。そうすると、保護者もそうした観点で声を寄せてくれるものです。以心伝心ですね。もっとも、事前に了解を得ることを忘れてはいけません。

○恩着せがましい態度にならないように

最後に、ぜひふれておきたいことがあります。教員にとって学級だよりの発行は任意です。ですから、保護者・子どもは初めは大いに喜んでくれます。しかし、それが日常化するにつれ、次第に「当たり前」という意識になることもあります。さらには、教員に対し注文をつけるようになるかもしれません。しかし、恩着せがましい態度はとらないことです。もしそういうことがあれば、発行することが仇になりかねません。その点に気を付けて、学級だより発行に取り組んでみてはいかがでしょうか。

